(2) 各学校設定科目の年間指導計画

①SS物理基礎

月	時間	単元	指導項目	指導目標
4	5	1 運動の表し方		・基礎的な実験観察から、速度・加速度の関連性を理解させる。
5	8	2 力	力の種類と性 質	・基礎的な実験観察から、物体等に働く力を理 解させる。
6	5	3 運動の 法則	カと速度・加 速度の関連性	・基礎的な実験観察から、力にと速度加速度の関連性について理解させる。
7 8 9	18			・基礎的な実験観察から、仕事とエネルギーの関連性を理解させる。
10	7		熱 とエネルギーの関連性	・基礎的な実験観察から、熱とエネルギーの関連性を理解させる。
11	9	6 波の性 質	波の性質	・基礎的な実験観察から、波の性質や波の本質を理解させる。
12 1	8	7 音	音の実際	・基礎的な実験観察から、音の性質を理解させる。
2 3 =1	12	8 電気と 電磁波	電気と電磁波	・基礎的な実験観察から、電気と電磁波につい て理解させる。

計 72

②SS生物基礎

月	時間	単元	指導項目	指導目標
4	5	○生物の特徴		・生物の特徴について、身近
				な生物や生命科学に関する理
		性・生物の共通性としての細 胞	採究心の育成	解を深め、知識・技術を基 に、適切な判断や創造的な能
		・エネルギーと代謝		力を身に付けさせる。
5	7	・代謝を進める酵素		
3	'	・生体内のおけるエネルギー		
		変換		
		・ミトコンドリアと葉緑体の 起源		
		^匹 ○生物の多様性と生態系	生態をしてのし くちにっい	・生態系とそのしくみについ
		・植生とその環境		・生態系とそのしくみについて、課題学習や探求活動を通
6	8	・植生の遷移	を促し、現在の状況と問題	じて興味・関心を高め、生物
		・気候とバイオーム		学が自然界に密着した科目で
		・陸上のバイオーム・生熊系とエネルギーの流れ	与える影響と課題解決策	あることを理解させる。
		・生態系での物質の循環		
		・生態系のバランスと保全		
7	4	生物多様性の保全	・遺伝子の役割について、生命科	・遺伝子の役割について、身
				近な生物や生命科学に関する
		○遺伝子とそのはたらき	の育成	理解を深め、知識・技術を基
		・遺伝情報とDNA		に、適切な判断や創造的な能 力を身に付けさせる。
8	4	・DNAの構造		33 E 31 (- 11 t) C C D .
		・ゲノムと遺伝情報 ・細胞分裂とDNA		
		・細胞周期とDNAの複製		
9	7	・遺伝情報の流れ		
	·	· 転写 · 翻訳		
		・遺伝子の発現と生命現象		
10	8	○生物の体内環境の維持		・対内環境の維持について、
		体内環境の特徴心臓と血液の循環		身近な生物や生命科学に関す る理解を深め、知識・技術を
		・心臓と皿液の循環	進と探究心の育成	る理解を深め、知識・技術を基に、適切な判断や創造的な
				能力を身に付けさせる。
11	7	・体内環境を調節する器官		
		・自律神経系による調節		
12	6	・内分泌系による調節		
		・自律神経系と内分泌による		
,	,	協同調節		
1 2	4 6	・生体防御と免疫 ・自然免疫		
4	U	・自然免疫・適応免疫		
3	4	・免疫とヒト		
計	⁻ 7∩	70,000		

計 70

③SS数学I

月	時間		単元	指導項目	備考
4	10	1章	数と式	整式の加法・減法・	
			式の計算	乗法	
		2節	実数	因数分解 実数	
				夫奴 根号を含む式の計	*** 1 ~ ** 33 + 7 [**].
5	10	3節	1次不等式	1次不等式の解法	数学 I で学習する「数と式」, 「集合と論証」,
				不等式の応用	「2次関数」, 「図形と
		2章	集合と論証	集合	計量」、「データの分
		1節	集合	命題と条件	析」と関連する身近な課
		2節	命題と論証	論証	題について主体的に学習
		3章	2次関数	2次関数とそのグラ	し,数学のよさを認識す
6	12	1節	関数とグラ	フ 2次関数の最大・最	る。
0	12	フ	対数とグラ	小	
				2次関数の決定	
				2次方程式の解法	
7	10	2節		2次方程式の実数解	※物理の授業進度に合わ
		2次	不等式	の個数	せて調整。
				2次関数のグラフと 2次不等式	
				2次不等式の応用	
8	6	4章	図形と計量	直角三角形と三角	
		' '		比	
		1節	鋭角の三角	三角比の相互関係	
		比	- 2 H. 2 H.	三角比と座標	
9	12	2節 張	三角比の拡	三角比の性質 正弦定理	※SS研究におけるグ
		3節	三角形への	余弦定理	ループ発表で科学的に判
		応用		三角形の面積	断し、理解しやすく工夫
			•	空間図形の計量	して説明できるようにす
10	12	5章	データの分	データの整理	る。
		1節	データの整	代表値	
		理と	分析		
11		- A-A-	- Hali	箱ひげ図	
12		2節 関	データの相	分散と標準偏差 相関関係	
1		美			
2		発展	是問題演習	相関係数	
3		1,1,1		100000000	
計	72				

④SS英語表現I

	月(時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学 習 内 容
	4月 (7)	Take It Easy : Unit1	挨拶、躊躇、現在形の質疑の 表現を習得させる	英文読解、ディスカッション、音読
<u></u>	5月 (7)	Take It Easy : Unit2	過去形の質疑、関心の表現、 過去の説明に関わる表現を習 得させる	
前	6月 (8)	Take It Easy : Unit3 パフォーマンステスト	頻度、ニュースの表現、"How"を用いた質問表現を習得させる。	前期中間考査 英文読解、ディスカッション、音読
	7月 (6)	Take It Easy : Unit4	計画を立てる、誘いを断る表現、活動についての会話表現を習得させる	
期	(4)	Take It Easy : Unit5 スピーチテスト	好き嫌い、丁寧語、レストラ ンでの注文の表現を習得させ	↓ 前期期末考査 英文読解、ディスカッション、音読
	(1)	Take It Easy : Unit6	未来形の質疑、賛否、確実性 と不確実性の表現を習得させ る	大久が肝、 アイヘガッション、 自 が
	1 O 月 (8)	Take It Easy : Unit7	場所、会話の終了、道案内の表現を習得させる	
後	(7)	Take It Easy : Unit9 Take It Easy : Unit10	日課、数、指示、人物説明、 強調、人柄説明の表現を習得 させる	後期中間考査 英文読解、ディスカッション、音読
	12月	パフォーマンステスト 補助教材を用いた表現練習	科学関連の英文に関する4技 能の習得	
	1月 (4)	補助教材を用いた表現練習	科学関連の英文に関する4技 能の習得	
期		補助教材を用いた表現練習 パフォーマンステスト	科学関連の英文に関する 4 技 能の習得	後期期末考査 英文読解、ディスカッション、音読
	3月 (3)	補助教材を用いた表現練習	科学関連の英文に関する4技 能の習得	
	計 7 0			*

⑤SS研究基礎

月	時間	単元	指導項目	指導目標
4	2		・自分の学習指向に合わせ	
		インを行う	た効率的な学習方法を学ぶ ための事前学習。	て、自己演習を実施。
5	2	(学習デザイン講 演会)	・公立はこだて未来大学教 授美馬のゆり先生による講 演会の実施	・ワークシートを用いてグループワークを実施。・講演についての感想をまとめる。
6	2	○大沼環境調査事 前学習	・環境調査の手法並びに事 前調査を、SS生物基礎等の 授業で実施する。	・調査手法を理解するととも に、大沼について多角的に事前 調査を行う。
		○講演会ならびに 調査テーマ決定	・前教育大学教授 田中邦明先生による講演会 の実施	・大沼の現状を知り、調査テーマについてグループごとに考える。
	3	○大沼環境調査の 実施	・実際に大沼に行き、調査 研究を実施する。	・調査テーマに基づき効率的に 調査を実施する。
	2	○研究の方法論	・教育大学教授 松浦先生による講演会の実 施	・調査データの扱い方、ポス ターのまとめ方の指導
7	2	○大沼環境調査ま とめ	・グループごとに課題発 見・解決策を考察する。	・調査データを共有し、グループで話し合うことで課題発見および解決方法の提案を目指す。
8	2	○大沼環境調査ま とめ	・グループごとに継続	・グループごとに継続
		○SDG s 講演会の 実施	・SDGsファシリテーター による講演会を通じて、 SDGsに対する理解を深める。	・SDG s のゴールを意識し、問 題意識を醸成する。
9	4	○大沼環境調査ポ スター発表	・グループごとにまとめた 結果をポスターの形で発信 する	・発表に際し、理解しやすくす るために工夫する。また、他の グループの発表を傾聴する態度 を育成する。
	2	○SDG s に関する 課題発見	・グループごとに課題設定 および研究方法を検討す る。	・地域の課題にも目を向け、 SDGsの観点から課題を探す。
10	3	(ミニ課題探究) ○SDG s に関する 課題発見および調 査研究の実施	・発見した課題解決に向けて効率的に調査研究を行 う。	・研究結果より科学的に適切な結論を導く。
11		(10月の継続)	(10月の継続)	(10月の継続)
12		(10月の継続) ○研究観察の結果	(10月の継続)・グループごとに課題に対	・わかりやすいポスターの作
1	2	のまとめ	する結果を科学的手法を用いてまとめる	成。
2		(1月の継続)	(1月の継続)	(1月の継続)
3	2	○課題探求ポスター発表会の実	・適切な発表の仕方の研究	・わかりやすい発表を心がける とともに、他のグループの発表
		施		を傾聴する態度を育成する。
	1	○1年の振り返り	・学んだことをまとめ、次 年度の研究テーマを考え	・今年度の結果を基に、さらに 研究が発展するように見通しを
			る。	立てる。
計	37			

⑥SS特講 I

月	時間	単元	指導項目	指導目標
7	1	○オリエンテー		4 H 11 M
8	2	ション 〇はこだて科学	・先端研究者の講義	内容を積極的に理解
9	6	祭の参加 ○地域課題講演	を受講する。 ・地域に密着した研	する。 ・地域課題について理
		会	究を行っている大学 および民間の研究者 の講演会を実施す	解を深め、地域の活性 化について議論する。
10	8	○探究ゼミ	・理科、数学を中心 に、発展的な内容に ついての実験・実習	・内容を理解し、発展 的な単元について理解 を深める。
11	2	○地域企業研究	を行う。 ・民間企業の技術者 を招き、地域産業の 可能性について考察 する。	・地域の産業に対して 理解を深め、社会貢献 について考察する。
12	6	○探究ゼミ	(10月の継続)	(10月の継続)
1	4	○探究ゼミ	(10月の継続)	(10月の継続)
2	2	○探究ゼミ	(10月の継続)	(10月の継続)
3	2	○探究ゼミ	(10月の継続)	(10月の継続)
	2	○1年の振り返 り	・学んだことをまと め、次年度の研究 テーマを考える。	・今年度の結果を基 に、さらに発展的な研 究の計画を立てる。

計 35